

中川村議会だより第119号アンケート結果

1. 今号の内容や編集について（表紙・見出し・写真・紙面構成など）

- 表紙の写真に違和感があります。肖像権を取り上げたモニターアンケートに配慮したものと推察しますが、ぼんやりとした写真は表紙として相応しくありません。中途半端な人物写真はやめて、村の歴史遺産や知られていない名所等人物以外の写真を表紙にされたらいかがでしょうか。村の「広報なかがわ」も表紙に人物写真を使用していますので、議会だよりの特徴が表れ一石二鳥の効果があると思います。
- 表紙の写真ですが、画像が粗くて見るに堪えません。人物が特定できないように配慮したものなのですか？
- 台風19号の災害の影響で一般質問の大半が防災対策で占められています。確かに大事なことではあるのですが、村の考えや体制を質しているだけという印象が拭えません。このたびの災害を議会一般質問における格好のネタにすることだけはやめてほしいと感じました。
- ページ数が少なく全体として読みごたえがありませんでした。
- 「消防団活動を考える」の記事は「次号へ続く」にせずに完結してほしかったです。3か月後に続きを読んでもピンとこないと思います。
- 今号に限らず、自分で現地へ赴いて撮った写真ではないと思われるものが掲載されているようですが、掲載する際はきちんと許可を得て出典を明らかにすべきだと考えます。
- 表紙：こんな行事があることを知らなかったのも、またひとつ中川村の伝統的な行事をすることができました。地区独自のイベントや、村独自のイベントを表紙にすることは外から村に来た人たちに興味、関心をもたせるきっかけになるかもしれないので良いと思います。
- 紙面：相変わらず文書が多いと感じました。読むのがつかれてしまう部分もありました。（あまり興味がない分野に関して）
村の子どもたちから内容に関するイラストをかいてもらったりして“議会だより”というかたい冊子から脱却してほしいです。この冊子こそ村の未来について考えるきっかけとなるものなので幅広い人によんでもらいたいです。
- 表紙の写真は村仕事の雰囲気が出ていて良いかと思うのですが、ボケているのは作為的なのでしょうか。もう少しマシなショットにしたら、もっと目を引く良いものになったと思うのですが。
- デザインは相変わらずホッコリした雰囲気で、悪く言えばダサい印象ですが、これも作為的に古臭い印象にしているのでしょうか。
- 一般質問の頁、質疑応答については、全体的にまあわかりやすいと思います。
- 一般質問の各ページの質問内容をテーマごとに分けたほうが読みやすいと感じ

ました。(1 ページに違うテーマの質問があるので) 質問内容も長すぎるので必要ない文言は省いた方が解りやすいと思いました。

- 今号の表紙の写真のピンボケは非常に残念な感じを受けます。表紙の写真は皆が気持ちよく見られるようきれいに写っているものがないのでしょうか。
- 2 ページ目は上段の補正予算等横書きの部分の説明やそれに関する質疑応答が、下段縦書きに書かれているかと思って読んだが、どうやら違うようでした。ページ数の都合もあるかと思いますが、それぞれ別ページにして、もう少し詳しく内容を載せるなどして分けた方が読み手もわかりやすいかと感じました。
- 表紙の注連縄作りは、今も伝統を守り素晴らしいと思います。もう少しブレずにきれいな写真が良かったですね。
- 最後のページの「消防団を考える」は、古村団長の考え方にとっても共感できました。大会前の忙しさもありますが、飲み会など、奥様達は納得できない事が多々あると思います。消防団の方達の御家族がまず納得して幸せである事。それが一番です。時代の対応力は中川村も見習うべき所がたくさんあるのではないのでしょうか。
- 今回は台風 19 号における全国の被害状況から、避難対策についての提言が多かったですが、早急に避難所の整備や避難に関する対策を進めてほしいです。
- 表紙の写真はむりとぼかしてあるのですか、それともぼけた写真を使ってしまったのですか? 地域の行事を表紙の写真に使い紹介するのは地域密着系でとてもいいのに、ぼけた写真を使うのは残念に思います。もしなにかの理由でぼかしの写真を使っていたのならこのような事を書いてしまってすみません。
- 中川村の観光の目玉のひとつだったハーフマラソンが中止になったのは痛手です。イベント会社 etc に企画・運営を頼む事は出来ないのでしょうか? 利益にならないかもしれませんが、中川村のアピールになると思います。
- 表紙の写真、少しピンボケのような気がします。表紙なので、はっきり写っている方が良いと思います。
- 災害に関する質疑が多く、他のテーマについても話し合いがあってもよいのでは、という感じがしましたが、文章が今までに比べてかなり平易となり、読みやすくなったと感じます。鈴木議員のページの、語句の説明がある辺りは素晴らしいと思いました。議会の難しいテーマでの質疑応答であっても、紙面としては館報のような親しみやすく、読みやすい雰囲気にしていただけると次号が楽しみになると思います。ハーフマラソンについて意見が出されていましたが、ランナーズクラブを中心としたマラソン実行委員会以外の方では絶対無理でしょう。かろうじて開催ができたとしても、かつてのような、日本一のマラソン大会にはならないと思います。
- 表紙の写真はピンぼけではありましたが、多くの方が注連縄を作っているということは、地区の注連縄を全員で作る習わしになっているのでしょうか? 他地区の読んだ人が、「へえー、そうなんだ。」と思うような、写真にまつわるもう少し

詳細な解説があるといいかも、と思いました。

- 災害時、広域停電になった際に揚水ポンプが使用できなくなるとの事で、電気と水との関係性を知ることができた。村の備蓄について、1000食というのは少ないように感じたが、かといって全てを賄うのは限度があると思うので、各家庭での備蓄が大切だと感じた。その為にも今一度村の備蓄等の現場を全村民へ共有し災害への備えの啓発を行うことが望ましいのでは。交流センターが具体的にどのような組織なのか知りたいです。
- 辰野町の消防団が大会を辞めた事の詳細が知る事ができた。中川村の消防団の方達も時代の流れの中で、工夫しながら活動を続けて頂けると嬉しいと思う。
- 表紙がおいさん達で和みました。このように集まってしめ縄を作っている事が知れて素敵だと思います。
- 表紙の写真は季節を感じる事が出来ます。
- 紙面構成は議会が開催された為、一般質問が中心となっていましたが、他に議員活動など視察や委員会報告があってもよかったのではないのでしょうか。一般質問の各議員の報告も重要とは思いますが、もっと身じかに感じるような活動報告があってもと思います。
- 表紙：地域の活動が分かる写真でよい。
- 見出し：各質問（議員の皆さんの）をまとめた見出し、分かりやすい。「災害時の避難所について」など関心の高い内容が目にとび込んできたので読み進めたくなった。その分「三六災害以上が起り得る」としながらそれ以上の施策がいつなされるかなど分かりづらかった。質問で対策や今後の展開がある場合、どのように議論され結果がいつの議会だより（または村HP）で発表されるか明記されると良いと感じた。

2. 議会だよりに掲載して欲しい情報は

- 119号は表紙を除いた全11ページのうち9ページが一般質問の記載です。一般質問の記載は各議員の編集責任のもと作成されていると思います。その他のページが編集委員会の責任で作成されるとしたら、それが2ページだけというのは問題です。ちなみに昨年1月に発行された115号は一般質問以外のページが4ページ（表紙以外が全13ページ）です。また、駒ヶ根市の市議会だよりの至近号は一般質問以外のページが9ページ（表紙以外が全15ページ）です。一般質問以外のページ比率は119号が18%、115号が31%、駒ヶ根市議会だよりが60%となります。この数値を見ると、失礼ながら119号は編集委員会の「手抜き」と言わざるを得ません。
- 議会だより116号に各議員公約の要約が掲載されましたが、各議員の皆さんは公約実現に向けて日頃どんな活動をしておられるのでしょうか？ 議会だよりを読んでも一般村民にはそれがほとんど伝わってきません。任期4年の折り返し点が近づく中で中間報告みたいな形で載せてほしいものです。
- 松川町に“Hug”という子ども食堂、兼、子どもたちのフリースペース（あそん

だり、勉強ができる“居場所”的なスペース)ができました。ぜひ中川村にも！
と思うのですが、村外のこのような事業をうけて村がどう考えているか教えて
いただきたいと思います。

- 載せて欲しいことは以前にも書いて却下されたように思いますが、議員の方達の
自己紹介、あるいは各議員が最も力を入れている村政の仕事等について、簡単で
わかりやすく写真のところにでも添えていただきたいと思います。そうすれば、人物的
にもう少しリアリティが出て興味をそそるのではないかと思います。
- 消防団活動についての記事が子供を持つ母親として興味があり次号へ続くよう
なので注目したい。
- 今号の一般質問で災害に対する村の考え方、そして交流センターがどんな形のも
のであるのか知ることができ良かった。今後も交流センターについて色々と知り
たい。
- 『地産地消』への取り組み、村ではやっていますか？
- 交流センターの話がありましたが、どういうものなんでしょうか？ 詳しく知り
たいです。
- 他市町村での面白い取り組み、参考になるようなマニュアルなどを取り上げて、
詳しく紹介していただけると興味を持てると思います。
- 〈表紙〉正月を迎える準備を、地区の人達が協力し合って作業しているのが伝わ
って来て大変良いと思います。
- 〈補正予算〉令和元年度後何ができるのかも判りやすく記載できれば良いと思う。
説明文があった方が良いと思う。(E x. 社体のトイレに後〇〇が必要となったた
め)
- 〈特集記事〉裏表紙“消防団活動を考える！！”特集記事らしく、前置きをしっ
かり書いた方が読む方もその気になる。ポンプ操法の練習の様子の写真があれば
もっと判り易いと思う。次号へ続くはゴチックで！ 期待しています。
- 視察報告・委員会報告他、議員活動がもっと身じかに感じる報告がほしい。
- (以前の質問・懸案事項の) その後の展開。

3. 議会・村に対する要望、意見等

- 過去3回のモニターアンケートでは「村(行政)に対する要望・意見」が散見さ
れます。議会だよりおよび議会に対する要望・意見が本来の趣旨であるにも関わ
らずにです。裏返せば、それだけ行政に対する要望・意見の受け皿が少ないとい
うことなのでしょう。村HPの「村長への手紙」を利用すればとの声がありますが、
少し敷居が高いと思います。一方、議会におかれても村民の声を吸い上げる
機会が少ないように感じます。議員との懇談会等のイベントに加え、恒常的に要
望・意見を吸い上げられるような努力・工夫を望みます。例えばSNS等インタ
ーネットの活用です。村が実施したアンケートにおいて紙媒体では反応が鈍かつ
た若い世代が、ネットを利用したアンケートでは多彩な意見をアップされたよう

です。ぜひご検討いただくようお願いいたします。

- 松川町に“Hug”という子ども食堂、兼、子どもたちのフリースペース（あそんだり、勉強ができる“居場所”的なスペース）ができました。ぜひ中川村にも！と思うのですが、村外のこのような事業をうけて村がどう考えているか教えていただきたいです。フリースペースは公民館や集会所をうまく活用できないかなあと思います。
- 核家族、父親の夜勤、出張、単身赴任などでストレスをかかえる母親が多いです。“子ども食堂”はストレスのひとつである“食事”の面が改善されるのではと思います。けど本心は栄養のあるものを笑って食べたいと思っています。少しずつ増えている“子ども食堂”“フリースペース”という親子の“居場所”“よりどころ”を村が、村民が考えていければいいと思います。
- 人口減問題については、かなり差し迫っているのではないかと思うので、一般の人たちに向けてもっと積極的に改善策を考えてもらえるようなアピールをしなければならぬと思う。その意味でも現在、村政の末端に位置付けられている様に思われる地区自治会というものが各地区で地区加入金、地区費に金額の違いがありすぎるのは納得できません。村外からの転入者を迎えるにしても、この辺りの説明を事前にきちんと説明しないと後々に問題が起こると思います。村民負担をできるだけ均等にする為に、地区費を無くすなどしてその分、村民税を上げるという考えもあるのでは、とおもいます。（まあ、あまり現実味のない極端な考えだということは承知の上ですが、今からできるだけのことはやるべきかと）
- とある大臣の育休取得が話題となりました。日本は世界で一番男性の育休取得に対する制度が整っているが・にも関わらず、実際の取得率はわずか6%程度らしいです。中川村ではどうなのでしょう？男性が育休を取れるか、取れないかの一番の要因はまわりの雰囲気のようなのです。中川村での取得率はどうなのか、雰囲気はどうなのかといった話を多方面の人から話を聞き、よい結果であれば、それを外へアピールする等をして、若い世代の人口が増えていけばよいなあと思います。
- 冬になると、夕方早くから暗くなり子供の下校時でも通学路がかなり暗いと感じます。防犯面からも主要な通学路への街灯の設置を望みます。
- 人口減少の為に、今のうちに縮小できるものはして、次世代につなげてほしいです。オーガニックの野菜の栽培など、若者が集まる農業へ焦点を当ててもいい時ではないでしょうか？従来の農薬を大地にバラまく農業に、若い人は疑問を抱いている人が多いので、今ある農業の在り方を引き継ぐというのは、次世代は育たないと思います。JAも宮崎県の綾などでは有機農業にかなり力を入れていて、移住者が多く、住宅が足りないと聞きました。大島農園のような成功している農園が既にあるし、こんな小さい村に太郎屋さんのような自然食品店があるなんて、すごい事だと思います。都会の友人が、いつもうらやましがっています。是非、村として有機農業に力を入れてほしいです！！若者が集まる村にしたいです。

- 山の中を通る道、車通りの少ない道のゴミ、空カン、ペットボトルの投げ捨てが多いような気がします。コンビニの弁当もありますが、生ごみが捨ててある時もありました。すでにしているかもしれませんが、ポイ捨ての多い道路、農道などの巡回などをしてみてはどうでしょうか。
- 台風 19 号の際には、TV でも、雨の最中は、「とにかく避難してください、命を最優先にしてください」の一点張りでした。確かに間違っていないですが、避難して命が助かって、台風が過ぎた後、土地家屋の被害があると、命が助かって本当に良かったなどと誰も言わず、極端な言い方をすれば、「逃げたあなたがあとの始末は自己責任で行ってください」という雰囲気漂います。事後の保障も大切だと思いますが、さまざまな被害を最小限に抑える「避難のしかた」もありそうな気がします。そういう意味では、防災訓練も各地区に内容は委ねられていますが、地形や住民構成に違いがあるからと丸投げせず、避難訓練の基本マニュアルを作成したり、全地区の防災訓練の内容を公表したりして、相互に参考となる情報交換ができるといいと思います。「あなたの家がもし台風で流されたとしたらこうなります。」といったようなシミュレーションがあってもいいと思います。ハザードマップにも「災害時の情報はこちらのサイトで」といったような記述が多くみられますが、高齢者がそんなところを見るわけないと思います。高齢者がどうしたら避難できるか、それを分かりやすく解説したハザードマップが必要ではないかと思います。
- 望岳荘にジムのような運動施設ができたなら良いなと先日ひとしきり盛りあがりました。老若男女使う事ができ、健康維持の意味もありますがコミュニケーションの場としても使え運動後は望岳荘のお風呂でサッパリして帰る。そんな場が出来るなら村民も望岳荘へ足を運んで輪が広がり良いなと。
- 議会だよりを見る限り机上の話だけに感じてしまいます。村内ではもっとふみこんだ意見や希望を持っている村民もいると思います。特に子育て世代にとって各方面についてもっと暮らしやすい村であってほしいと願っているのですが、議会の内容からはとても住みやすい若い世代にとっての村になっていくのか不安に感じます。
- 障害のある方、ひきこもりの方へのフォローはどうなっているのでしょうか。特に村の自殺率の検証と対策の必要性を感じます。

4. その他

- 議員のなり手不足に対し具体的な議会の動きがみられません。他の市町村では様々な努力をされています。中川村議会の一層の奮起を期待します。
- 議員の高齢化が気になりますが、若者は若者で、だれにもたよれず（核家族、身内が遠い、祖父母世帯がまだ現役ではたらいっている、外からひっこしてきたので地域の人との関係も希薄など、自分たちでどうにかするしかない状況）仕事、子育て、家事をしています。だけど若者の意見も聞いてほしいというジレンマ。ど

うしたら良いでしょうね。

- 以前の紙面にこのアンケートに対する答えがあり、興味深く読んでみましたが、あまりにもそっけない受け答えの様な印象でがっかりでした。色々と文句をつけられてもそんなに簡単に解決できないことだらけだとは思われますが、積極的な姿勢だけは示して欲しいなと思います。でないと、このアンケートに色々と書いても何も変わらないのかな？みたいな空気になって、議会だよりモニターとしてのモチベーションがかなり下がります。
- JA も宮崎県の綾などでは有機農業にかなり力を入れていて、移住者が多く、住宅が足りないと聞きました。大島農園のような成功している農園が既にあるし、こんな小さい村に太郎屋さんのような自然食品店があるなんて、すごい事だと思います。都会の友人が、いつもうらやましがっています。是非、村として有機農業に力を入れてほしいです！！ 若者が集まる村にしたいです。今の若い人と、中川村の感覚が少しズレている感じがします。もっと自由な発想で物事を考えていいんだ、否定ではなく受容するという雰囲気じゃないと、なかなか議員さんをやりたいという若い人はいないんじゃないかと思います。今の議員さん達も、もちろん素晴らしいと思います。
- 3月2日には、総代会で議会傍聴ができますので、楽しみにしています。
- 議員活動がどんなものなのかがわかりにくい為又、若い世代には魅力を感じることが出来ないので、議員をやってみようと思わないのではないのでしょうか。学校などの役員と同じで、若い方では積極的にという考えが少ないのです。